



マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年7月6日（月）No.15
文責：情野 夏美

ITC×インクルーシブ教育セミナーvol.9に参加しました！

7月4日（土）に、ITC×インクルーシブ教育セミナーvol.9に参加してきました。マイクロソフト社の本社で、東京学芸大学附属小金井小学校の4、5年生のICTを使った授業2つと、協議会・講演会を聞いてきました。授業も講演もとても面白く、勉強になりました。ここでは授業の内容をメインに報告します。協議会、講演会については、メモを回覧しますので、そちらをご覧ください。

【5年算数「分数のたし算とひき算」加固希支男先生】

- ・分数のたし算の0時間目扱い

→系統性を意識した復習と未習への架け橋の授業だと感じました。

- ・ICTの活用→パワーポイントで授業が進む。（「」の文を表示する）

Temsのチャット機能で児童の考えを把握する。

- ①「小学校で学習してきた算数の思い出は？」の問いでスタート

児童→さくらんぼ算、バナナ

- ②「たし算ってどんな計算？」

児童（Tems）→かんたんすぎる、たす計算

- ③「低学年のころの私」→整数のたし算の復習

問：一りん車が5台あります。そこに子どもが3人きました。あわせて一りん車は何台になったでしょうか。

→単位が違うので、たし算ができないことを確認する。

問：30+2？

→3と2は単位が違うので、足せないことを確認する。位をそろえる。

- ④「中学年のころの私」→小数のたし算の復習

問：4.56+2.3？

→小数点をそろえるのではなく、単位をそろえることを確認する。

問：ジュースが大きいビンに $\frac{3}{10}$ L、小さいビンに $\frac{2}{10}$ L入っています。合わせて

何L入っていますか。

→単位は $\frac{1}{10}$ 。分母がそろっているから計算できることを確認。

- ⑤「高学年のころの私」→分数のたし算の確認

問： $\frac{1}{2}$ L牛乳と $\frac{1}{3}$ Lの牛乳があります。合わせると何Lですか。

→分母が違う。単位がそろっていない。分母、単位をそろえて計算する必要があることを確認する。

※先行学習（塾等）でやり方を知っている児童は、次々と説明するが、加固先生は、ただ計算できるのがいいのではなく、どうやってそうなるのかを説明できることが大事だと子どもたちに伝えていました。

- ⑥「たし算ってどんな計算？」

児童→単位をそろえないとできない計算

→ひき算にも同じことができることを確認。

★1時間を通して、たし算（ひき算）は単位をそろえないとできないことを何度も確認していました。既習が未習へも行かせることを児童に実感させる1時間でした。

【4年国語「ごんぎつね」鈴木秀樹先生】

- ・兵十とごんの気持ちについて考える学習。
- ・ICTの活用→デジタル教科書（光村図書）
まなビューアの中にあるマイ黒板の使用（本校でも使えます！）
TomoLinks（トモリンクス）教育用の生成 AI アプリ

①前時まで行っていた兵十の気持ちを確認する。

→すべて教科書の文に立ち返って、考えさせている。

②ごんと兵十の気持ちが離れる、重なるところを考える。

→AI と対話しながら考える。

教師は事前に AI にプロンプト（指示）を出している。

Step1 のプロンプト→対話しながら、自分の考えを方向付けていく。

決して答えは教えない。

Step2 のプロンプト→Step1 の考えを入力すると、いちゃもんをつけるようにしている。＝自分の考えを確かなものにしていくために設定したそう。

児童は黙々と AI と対話し（自分の考えを入力）、考えを決めていく。

時間になったら、「ここまでをまとめて」と入力する。

③自分の考えを見せ合って、友達と交流する。

→自分の本当の考えと違う児童もいた。AI で出た考えがすべてではないことを確認する。

④全体共有

→教科書のどこからそう考えたのかを話させている。

★黒板、紙の教科書、ノートは使わず、すべてデジタルで行う授業でしたが、教科書に立ち返ったり、友達と交流したりと、授業の基本はおさえているなと感じました。児童たちは、AI は答えを教えてくれるという感覚ではなく、考えるために助けてくれる存在と認識しているそうです。AI に対する考え方を変えていかねばいけないなと感じました。

【協議会 加固希支男先生×鈴木秀樹先生×中川一史先生】

加固希支男先生より→授業に対する「こうあるべきだ」をなくす。

失敗したら次に生かす。

鈴木秀樹先生より→学び方を複数用意して、児童が選ぶ。

自分に合った学び方を分かってほしい。

【セミナー①「ちがいを力にする～学びの主役は誰ですか～」副島賢和先生】

①つながり ②自尊感情 ③S（Safety 安心）C（Challenge 挑戦）H（Hope 希望）が大事。

【セミナー②「『あの子』を救う ICT は、すでに私たちの手の中にある～通常学級における多様性の包摂と実践～」坂井聡先生】

学ばせたい本質は何か？教師の手助けなどでその子の可能性をつぶしていないか？

【パネルディスカッション 鈴木秀樹先生×佐藤牧子先生】

- ・共感、寛容
- ・毎時間100点ではなく、50、60点を毎日続けていく。
- ・全員仲良くなる必要はないが、全員の居場所があるようにしている。